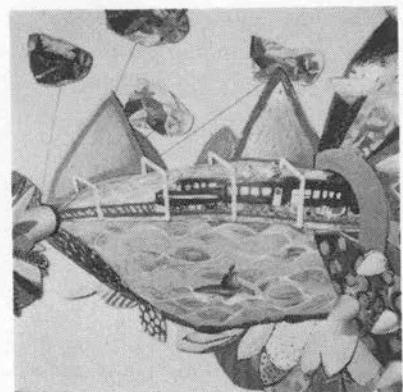


# 隨想



カット/杉山知子 “The Second Meeting” (部分)

## 10周年を迎えた 「アート・ナウ」

山脇 一夫

△兵庫県立近代美術館学芸員△



10周年を迎えた  
「アート・ナウ」

毎年関西の現代美術を紹介する  
「アート・ナウ展」も今年で十回  
目を迎えます。ベテランから若手  
まで、本格派からもっとも新しい  
傾向のものまで、分野も絵画、彫  
刻、版画といったオーディオクス  
なものから、ビデオなどの新しい  
ものまで、それに陶芸や染織など  
工芸の分野まで含め、さまざまな  
美術の分野における今日の美術の  
状況を知らせる、それが「アート  
・ナウ」です。昨年からは若手中

心の構成となり、今回も全員二十一  
代、三十代の作家群で、若々しい  
感性のあふれる元気のいい作品を  
見せてくれるでしょう。

北山善夫は、つい最近開かれた  
「バングラデッシュの『アジア・ア  
ート・ビエンナーレ』で大賞を受  
賞したばかり。「ヴェネチア・ビ  
エンナーレ」をはじめイスラエル、  
アメリカ、韓国などの国際展にも出  
品しているインターナショナルな  
アーチストです。細い木や竹の枝  
とさまざまに彩色された紙、皮や  
金属などを組み合わせて、空間に  
感性豊かな世界をくり広げます。  
銀行などの壁画も制作している栗  
岡孝於是、色彩鮮やかな大きな画  
面にひし形を中心としたアラベス  
ク模様を構成してきます。松井  
智恵と杉山知子は、キャンバス  
や立体の枠をはみだして部屋全体

を作品とする環境的な仕事です。  
松井智恵は、染めた布、描かれた板  
毛皮、プリントされた布などさま  
ざまな素材を壁や床に置き、それ  
らが全体で有機的に統一され、見  
る者の視覚に訴えています。それ  
らは日常のレベルから出発して象  
徴的領域へと導かれます。また、  
杉山知子は、ポップ調の絵が、キ  
ャンバスの枠をとび出して部屋  
一杯に占領するというものです。  
果物や野菜、また彼女の身辺のさ  
まざまな物が、アクリル絵の具の  
鮮やかな色彩で彩色されたダンボ  
ールの切り抜きによって組み合わ  
れています。上谷朋子、馬場草香  
中島一平は絵画ですが、色彩豊か  
で動的な画面に現代の若い人の感  
性を奔放に表現しています。そし  
て、村上明は月の光を印画紙の  
上に写し取る月光写真ともいえる  
仕事を通じて、自然と人間との根  
本的な関わりを考えさせてくれる  
作品を作っています。塙脇淳は鉄  
の柱を曲げて構成する鉄の彫刻  
家。地面から背中を持ち上げた鉄  
の生物といった感じの作品です。  
龍田龍也は、太い木の枝をその形  
に沿って切り出したものを何十本  
も床に林立させた作品です。木の  
肌もみずみずしい裸木の林が会場  
に現われることでしょう。渡部慶  
二郎は独創的な機械ともいべき

もので、機械のパートもすべて手作り。できあがった本体もパートもそれそれが作品です。その他、大久保英治（床の上の作品）、篠原猛史（壁面を版画作品で構成する）、

高原洋一（兵庫県立近代美術館賞、國立国際美術館賞受賞の版画家）、

藤本哲夫（染色）、吉田和史（鉄を使った立体作品）が出品します。

また今回からは、前回の出品作家から選ばれた特別陳列の作家のうち、太田堯子（立体）、河添潤（立体）、佐藤慈男（立体）の三人の作品が出品される予定。これらの若手作家群による美術の現況をパノラマできるものとして、大いに期待されるものです。

★アート・ナウ'84  
兵庫県立近代美術館にて  
3/3-25

「まさか……。」

栄由紀子

△神戸服裝専門学校▽



受賞作品

立ちすくんでしました。この大きな喜びの実感はこの日から何日もかかつて味わつたといつてもよいでしょう。

デザイン画の入選通知を受け取ったときも驚きで顔が紅潮したほどで、今回の幸せはコンテストに参加できた喜びから始まっています。

このデザイン画に取り組んだのは、6月の中旬頃、募集締切の8月20日迄約二ヵ月かかってあれこれと20点ほどにまとめたものの一つです。キモノスタイル100%の感じのこのデザインは、素朴な紺の紺の縞柄と茶の縞柄のイメージで日本調田園風に表現しました。

このデザインは、私の好みと、私らしさが素直に表現できた作品だと思っています。入選出来る出来ないを越えて深い愛着を持ったデザイン画が、参加数三千二百十九点の中から選ばれ25点の中にまず入選したことには感謝しています。

さて、作品の製作にとりかかって、まず第一にデザイン画どおりのキモノのイメージの布地を探すのに苦労がありました。神戸、大阪を足を棒にして一週間探し歩きやつと呉服売場でキモノ地を見つけたときの嬉しさも忘れられない思い出です。

出来事で、ただただ緊張で呆然と



喜びの筆者

縫製では、キモノ地の小幅ものをデザインにあわせて縫い目を感じさせないように縞柄を縫い合いました。縫製では、キモノ地の小幅ものをデザインにあわせて縫い目を感じさせないように縞柄を縫い合った。

制作に入つて一ヵ月、やつと出来上がったときの嬉しさは、今までの苦労と疲れがスッと消えていくような気持ちになりました。

審査当日、会場には、すばらしい作品がずらりと並んでいました私の素朴な作品などだんだん影が薄くなつてゆくばかりで、自信を失くした私は複雑な気分で審査風景を眺めていました。でも、「まさか」と思うような今度の大賞を受賞して最後まで頑張つて本当に良かったと思っています。

また、審査の水野正夫先生が、

「一本の線、一枚の布地にも無駄な構成がない」と私の作品を高く評して下さったことばを大切にして、今後も洋裁専門学生として励んでゆきたいと思っております。

## ワサブロー

### —パリへの便り—

堀 郁子  
（ハシヤンソン歌手）

マロニエの枯葉が散り、パリも冬の訪れですね。ワサブローは、元気にシャンソンを歌いつづけていらっしゃいますか。あのモンマルトルを、サンジェルマンデプレの石だたみを、細いしなやかな足取りで風のように飛び回っているのでしょうかね。昨年はパリに行けませんでした。ワサブローを驚かせる事をどうぞお許し下さい。

あんなに元気だったボクちゃんが昨年の夏死んでしまったのです。甲状腺のガンが腰骨と肝臓に転移して、死を宣告されて五ヶ月で、二度と帰らぬ人となりました。

病院嫌いの彼女は、東京の国立ガンセンターに行った時はもうすでに手遅れでした。私は涙も流れ

ない、血も凍るような思いでした。何とかして助かる方法はないものかと先生方にお願いしました。声がかれて出ないボクちゃん、でも手術の時は元気でニッコリしていました。四月、五月は東京に居



ありし日のボクちゃんと筆者（左）

てコバルトの治療など、一人部屋で寂しいといって、どうしても神戸に帰るといって、無理にマンションに帰つて来て一ヶ月、痛い痛

いの毎日には、みるみるやせてきました。そして七月初めに甲南病院に入院、暑い暑い昨年の夏でした。でも何も感じる間がなかったのです。一日でも長生きしてほしい気持ちとその反対に一日でも早く楽になつてほしい気持ちとが交差しました。

私は毎夜エトワでシャンソンを歌うことで生きて行けたのです。ボクちゃんの姿を想い出して泣いてしまつたり、何を歌っているのかわからない日もありましたが何とかわからぬ日もありました。泣いてくださいました。

神戸にシャンソンの輪をひろげたいというボクちゃんの情熱を私は持ち続け、シャンソンを歌い続ける事でしょう。

ワサブローもパリから里帰りしたら私とジョイントリサイタルをしましました。きっとボクちゃんは見守ってくれています。来年はまたパリで逢いたいですね。

注（ボクちゃんとは音楽の家の演出家戸田朝恵さんの愛称です）

て、苦しみの表情は消え天使のような美しい顔、私は薄化粧をしてそっと口紅をつけてあげました。

平野の祥福寺の書院で二日間の通夜、九月一日、ものすごい雷神の中本堂で多数の僧侶の読経の中

を昇天して行つたのです。きっと元気だったから死にきれなくて雷があがれて連れ去つてしまつたの

でしょう。何事も演出する事の好きな人だったから自分の葬儀もすばらしい演出でした。

そして九月七日、国際会館大ホールでの『音楽の家』堀郁子主催のシャンソンコレクションの日は何と、ボクちゃんの百カ日だったのです。ステージに祭壇をもうけ、メンバーが黒いドレスに菊の花束を持ち、また神戸での親しかった友人達がステージで花束を捧げてくれました。みんな元気だったのに、いろいろな方が惜しんで泣いてくださいました。

たいたいと何度思つた事でしょう。どうとう水ものどを通らなくなつて八月三十日の朝、帰らぬ人となつてしましました。でも息をひきとつてから二十分ぐらいたつ

晴れ着は破れ着になりやすい



- 型くずれの防止 ●サービス内容 ●  
●素材感の回復 ●お客様のお好みに合せた仕上  
●カルテの作成 ●ファッショントリーニングの最新情報の提供



神戸市中央区三宮町2丁目10番7号  
ヒューストン101☎ (078) 332-2440

# Étranger エトランゼ

エトランゼたちに 愛されてきた  
美しい港町 神戸  
潮風に 髪をなびかせて  
歩いた坂道  
ふと出会った.....  
チーズサブレ——忘れない  
そのデリケートな歯ざわり  
異人館のある街 神戸



¥1,000

¥1,500

¥2,000

—北欧の銘菓—

ユーハイム・コンフェクト

本社 神戸市中央区熊内町1-8-23 ☎ 221-1164

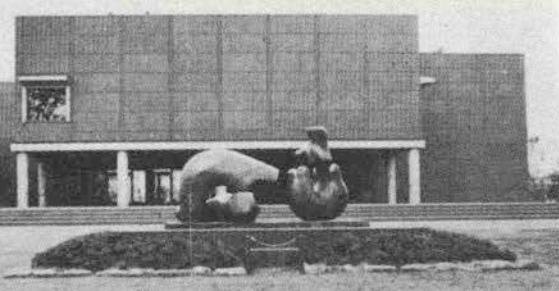
# 美術作品の交流

△その54 地方美術館への提言

本間 正義

△埼玉県立近代美術館館長

美術館ブームを作った山梨県立美術館



昨今、美術館建設ブームが続いている。ブーム以前には、美術館は建物のガラだけを作れば、あとなんとかやれという考え方支配的であったが、ブーム以降は、開館数年前から建設と平行するよう、その中味である美術資料を収集して、開館時には、一応の常設展示が出来ることが一般化してきた。この先鞭をつけたのが山梨県立美術館であつたといえるが、同館は億単位の金を投じて、ミレーの作品を購入し、これが人

気をよんで、今や観光ルートにも組み入れられるといった具合で、多数の観客を動員した。このことがひき金となって、その後に出来てくる美術館は、開館前からなりの高額の収集費を準備することが普通のようになってきた。

これは大変な進歩といえるのであるが、その反面、客を呼べる目玉商品としての一点豪華主義が起

こつてきて、その目標は、教科書に載っている西洋の名作というこ

とが合言葉のように云々されて、印象派あたりの作品がねらわれる

という結果になってきた。国立以外の公私立美術館は、博物館法によつてコントロールされていて、大小の違いこそあれ、同型のタイ

プとして、同じような傾向を帶び易いのである。従つて各美術館の

収集も、往々にして競合状態があらわし、その結果、作品の値上がりをうながすという現象も起つてきつた。必然的にこのことへの批判も高まり、目玉的名作指向の一律を避け、各美術館の地域的特色等に根ざした能率のいい収集を目指すべきだということも、一方において主張された。

しかも建設のスピードに対する

資料の絶対不足ということも考え

易いのである。従つて各美術館の収集も、往々にして競合状態があらわし、その結果、作品の値上がりをうながすという現象も起つてきつた。必然的にこのことへの批判も高まり、目玉的名作指向の一

律を避け、各美術館の地域的特色等に根ざした能率のいい収集を目指すべきだということも、一方において主張された。

しかも建設のスピードに対する

資料の絶対不足ということも考え

られ、博物館法によらぬ全く新しいタイプの美術館構想もささやかれている。それは県立、市立というより、もっと大きな広域的な視野で、中央資料館的なものを作り組織する。一方、各要所都市等には展示館をもうけて、そこに組織した展覧会を巡回するといった考え方である。これは展覧会経費の節約や、急ピッチな建設に不足し勝ち残る学芸員の拡散する資質の密度をひきしめる便法になり得るかもしない。

しかし、こんなことは実際には簡単に出来る問題ではない。そこで提言したいのは、各館の現在の収集の情報を迅速に交換し合つて無理な競合や、それに伴う高騰を防ぐ工夫をこらすべきである。それにもまして美術館同士お互いのコレクションの貸借ができるだけ容易にして、通風をよくする必要がある。

もちろん移動等によって、危険になるもの等は、自ら制限されるべきであるが、それも出来得る方策を構することで、流動的に考えるべきだということは、美術品といふものは、多くの人々に鑑賞されることで、本当の意味の価値を生じてくると思うからである。美術館の場合とはもちろん違うが、個人コレクターの場合でも、ぜひこの考え方について、展覧会への出品協力を、願いたいところである。

詩心象

詩・安水 稔和  
画・石阪 春生



## ほいなうそうな

雨あがりのぬかるむ底冷えのする  
寒そうに人のゆききする神戸の町  
を先皮のない高下駄はいて男が歩  
していく。昨日風呂屋の門先で見  
た女の子のことを考へてゐる。し  
やがんでひとりで両手でジャンケ  
ンしていた子。「布衣ない相な眼  
付して／壁土の様な顔をして」<sup>(註)</sup>

時移り事去り土失せ光と音と物が  
溢れる町で。寒そうに歩きまわる  
人々の足もとに私は見た。あの子  
が何人もしゃがんでいるのを。ジ  
ヤンケンもせず黙りこくつてじつ  
とひとりひとり並んで離れて。

(註)賀川豊彦の詩「ひとり勝負」から。

賀川豊彦（一八八八—一九六〇）には四冊の詩集がある。  
「ひとり勝負」の收めてある第一詩集『涙の二等分』には  
貧困に苦しむ人々への熱い涙が満ちている。

# やすらぎの美

小原 稚子(小原流理事・国際部長)



絵／上尾忠生

訪れるたびに新しい感銘と印象を与えてくれる。あたかも新鮮な空気が、体内をさつと通つていくような清々しさ。これが父に連れられて初めて訪れた少女の頃から今に至るまでの、私の奈良に抱いている気持なのだ。

アメリカに留学していた頃、私は日本の夢を何度かみた。木の間がくれに見える淨瑠璃寺の雅びな塔。にぶい金色のしづまりかえった九体の並んだ仏たち。ものうい夏の陽ざしの中にしづもつている蓮池。早春の花冷えの中に凜と建ちつくしてゐる寺そのもの——どれも祖国への郷愁であり、異国で思う日本そのものであつた。

五月の雨あがりには、池のまわりの柔らかそうな土から水蒸気が立ちのぼる。新緑は黄に緑にマツスとなって、あちこちでまぶしげにそよぐ。たっぷりと露をふくんだようなこんな景観が、私にとってはまさに「日本的」なのである。

薬師寺東塔を見上げる。

ゆく秋の 大和の国の 薬師寺の  
塔の上なる ひとひらの雲

というのは、私の大好きなスケールの大きい佐々木信綱の一首である。背景にある遠くのものに眼を移すことによって、いつも強く建築の完璧なまでの美しさがきびしくひらめく。ひとつつの完成された美を正視し、そしてゆっくりと視線をはずす。そこに美の残像を味わう。大和ならではの楽しさではないか。

唐招提寺の門をくぐると、そこには淨境を完全なものにするための配慮がなされている。優れた構成に、いつも感服する。広い、まるで拭き清めたような白砂の空間の向こうに建つ金堂。雲の切れ間から陽がさすと、天平の甍(いもん)は美しく光り輝く。諸仏はもとより、この寺には天平人の氣宇というべき壯快さがある。おおらかで大陸的とでもいお

うか。

金堂の後の大屏にかすかに残る朱の美しさ。この洗朱の色は、まさに東洋の色である。往時の境域からは、はるかに小さくなっているにもかかわらず、現存している部分からでも充分に感じられる壮大さを前にすると、もし薬師寺や唐招提寺がなければ、奈良の風物はもっと小味なものになつていたに違いないと思う。

強い風の吹き渡る平野の中に、一本の松と一基の石碑が建つだけの大極殿の跡に立つて、遠く連なる低い山並を見渡すのが私は好きだ。奈良創建の頃、大極殿に坐つた天皇は、雨や風や四周の山や、そして民衆の生活が実感できたであろう。

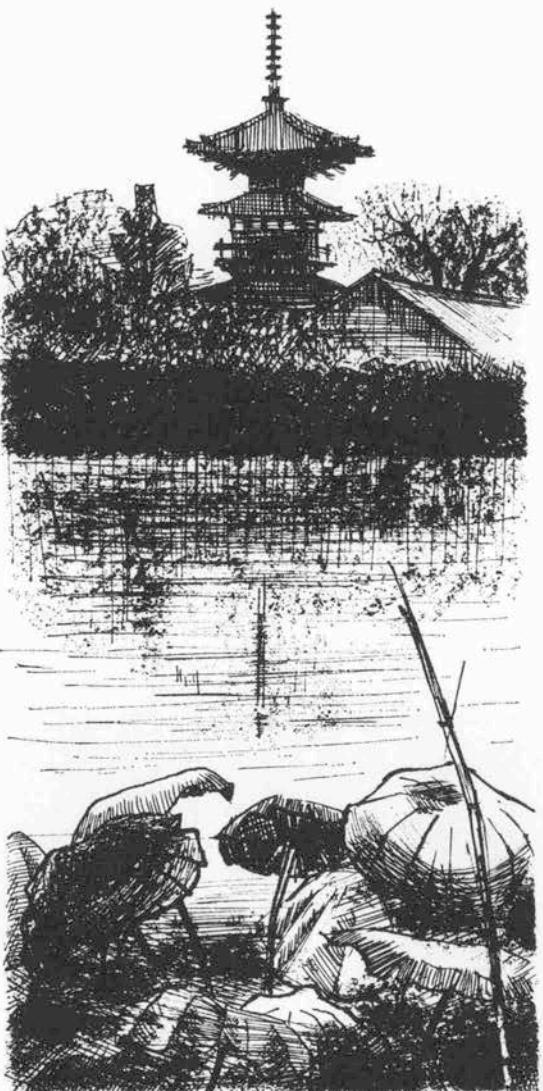
春すぎて

夏来るらし

天の香具山

持統天皇

選び、すぐられた真珠のように例えられる大和



の山々の自然の美しさを発見した天平の人々にござりない目が、そのまま大和という土地を選ばせたのだろう。万葉集には驚くほど多くの山の歌が記載されている。このことからも、当時の人々は自然と深く結びついていたといえる。

自然を深く見つめる。まさに我々日本人は自然と密接に結びついて生きてきた農耕民族なのだ。春にこぶしの白い花が咲くと種をまく時期を知る。初秋に樹木が色づくと刈入れをする。美しく雄大な自然への信仰もめばえる。

自然を忘れ、自然から離れてしまつた今の大部の日本人的生活。我々は段々と日本人でなくなつていくのだろうか。

奈良を歩くとき、私の足もとに歴史がある。日本の美しさを知る。日本人としての誇りを感じる。そして何よりも、そこにはやすらぎがある。

# 映画発祥の地 神戸に夢の記念碑を

## □出席者□

淀川 長治

△映画評論家△

長島 隆

△神戸地下街株式会社副社長△

東岡 勝

茂 △兵庫県興行協会常務理事・事務局長△

嶋田 勝

次 △神戸大学工学部助教授△

三村 照雄

△神戸シネマハウス  
△KOB映画フェスティバル実行委員会△

——国際港湾都市神戸は、貿易や文化、スポーツなど現代の日本人の生活を彩るさまざまなことがらの発祥の地として、そこに記念碑があり数多くの行事が催されています。また、神戸っ子はそれらを大切にし、自分たちの生活の中に形をかえてうまく受けついで、さらに神戸らしいものへと生かしています。

かつて、明治29年、現在の映画の元祖ともいえるキネトスコープが日本で初めて上映されたのは、神戸の花隈にあった「神港俱楽部」でのこと。神戸の高橋信治氏が輸入したといわれる活動写真が一般公開され、ハイカラ神戸っ子たちに大きな感動を与えました。その後、戦前には新開地が娯楽の殿堂として栄え、映画の繁栄には目をみはるものがありました。現在、映画発祥から90年目にあたる昭和60年を目標に、その記念碑を建てようという運動が映画ファンのみならず、多くの人々の協力をえ

て、今や全国的なものとなりつつあります。今回は、神戸出身の映画評論家、淀川長治さんを囲んで、映画に関りの深い方々にお集まりいただき、積極的な意見をお願いしたいと存じます。

## ★神港俱楽部は日本の映画ファンの故郷

淀川 今日、私、はじめて神港俱楽部の跡地にあたる川崎重工保健会館へ行きましたが大変いい所ですね。花隈のダウンタウンで、昔、ここに神港俱楽部があつたということを想い浮かべただけで、きっと、素敵な社交場だったのでしょうかという気がします。このような環境で、明治29年に日本で初めての活動写真が上映されたということは、われわれにとっても非常に嬉しいことです。アメリカではニューヨークのニュージャージーが最初に映画が上映された土地なのですが、そこにはまだ映画



三村 照雄さん

鳩田 勝次さん

東岡 茂さん

長島 隆さん

淀川 長治さん

発祥の地としての記念碑はありません。私は、初めてアメリカへ行った時、第一回目にそこへ連れて行ってほしいと申しまして、行ってみたら、記念碑的なものは何一つないんですね。何か、それらしいものがきっと見つかるはずだと思ってたんですが、何もありませんでした。何だか、とても寂しかったですね。今回、シネマハウスの三村さんたちの呼びかけによって、映画発祥の地である神戸に映画記念碑を建てようという運動は大変、嬉しいことです。神戸は私の故郷でもあり、今日、訪問しました神港俱楽部跡地を見て、私も勇気づけられました。

長島 私も淀川先生のお言葉を伺って、とても頼もしい気持です。というのは、私が映画ファンとしての洗礼をうけたのは、何といっても淀川先生の影響でして（笑）神戸三中に入学した一年生の時から熱烈なファンとなつて、今でも憶えているのは、ジョン・フォードの「肉弾鬼中隊」です。これからもう病みつきで、学校を休んででも映画へ通い始めたんです。「バラは何故赤い」とか、神戸で観ると学校へわかつてしまふので、大阪の心斎橋まで出かけていき、弁天座で観ましたね。

鳩田 私は大学生になるのを待ち焦がれていて、大学へ入ったとたん、「駅馬車」などを観にいきました。

東岡 私の頃には、映画といえば新開地しかなかつたんです。裏通りをすりぬけて、昔のアイススケート場の前に「朝日館」というのがありました。それに「有楽館」があつて、私はよくそこへ通いました。そこは入りやすかつたし、出るのも出やすかった。冒険に近いような思いで観ましたね。当時はまだパートトーキーでした。

淀川 昭和4年にトーキーになりましたが、私は長い間サイレント映画を観ていたでしょ。ところが、トーキーになって、ゲーリー・クーパーが「この野郎、出て失せろ！」なんて言う、バーグマンなどを長い間、日本語で観ていたのが、トーキーになると、いきなり、アイラブ・ユー、アイ・ヘイト・ユー、ゲッタ・ウエイ！なんて、突然、喋り出して、私は「ああ、西洋人だったの

か」と、思いました。全然、英語なんて、この人、言う人じやなかつたのに(笑)、と思いながら、本当にびっくりしましたなあ。

**嶋田** 私は戦後の大学生時代、2本立て、3本立ての頃ですから、ずいぶんと違いますね。

**淀川** どこでご覧になられましたの？

**嶋田** 三宮神社のそばの三宮キネマです。洋画がたくさん観られました。

**淀川** そこでしたら、万國館というのもありましたね。

**東岡** 歌舞伎座というのもありました。

**淀川** もともとは、相生座というものが楠公さんのそばにありました。それがショーの発祥地だったけど、湊川が埋め立てられて、新開地ができてから、相生座もみんなが新開地へと移っていましたわけですね。それからが、いわゆる新開地の黄金時代を迎えることになります。大正の、それはもうけんらんたる賑わいでしたな。

**東岡** 夜の新開地といえれば、看板が軒なみ並びましたね。実にみごとなものでしたよ。

**長島** 私は、看板をながめながら、どこに入ろうかといふのが、楽しみでした。

**淀川** 実に魅力ありましたね。それで、看板にもこひいきというのがあつて、朝日館は誰々、キネマ館は誰々というのが風情ありました。

**東岡** 看板には、油絵とどろ絵とがつて、油絵は洋画日本映画はどううに決まつていました。

**長島** 昔、「新映画」という雑誌がありましたね。あの雑誌には面白い似顔絵が載っていました。

**淀川** あれは、伊藤竜男さんという人が描いてたんです。この人はニューヨークへ渡つて、アメリカ仕込みのバスルタツチを覚えて帰国しました。アメリカ仕込みだから當時としては、似顔絵のまづげもきれいでいて、「新映画」創刊第一号の表紙がグレタ・ガルボでした。それから「スター」これもきれいな絵でしたね。今でも見劣りしないです。

**長島** 私は、その「新映画」という本が大好きでして、面白かったのは、ファンの投書欄がありまして、ゲーリー・クーパーの好きな人は、ゲーリー・クーパー・J.Y.なんていふ筆名で投書したり、中国との戦争が始まつて戦争にとられた兵士が、戦地から投書をしたり、さまざま想い出がありますね。

**淀川** 私、それで、大変、いいことを想い出しましたよ。私は「新映画」に入社したかったんですけど、入れなく結局は「映画の友社」に入つたんです。「新映画」はとてもハイセンスな雑誌でしたので、私は憧れていたんですね。というのはこの雑誌の読者が、ものすごく粹でおませでした。そして、センスが抜群にいい、読者は、みんなそれぞれに、ゲーリー・クーパー・ジュニアとか青森の黒猫とか、洒落た名前を考え投書していくんです。

私は3つペンネームをもつていて、ジョージ・バンクロフトとか他は忘れましたけど、読者が投書欄で自分の好きな俳優に片入れして、いい意味での喧嘩が実に楽しい雰囲気でさかんにされました。6ページぐらいのボリュームでしたが、本当に楽しかったですね。

それから、非常に面白いことには、その当時、投書欄の常連だった人たちが当時が懐しくてたまらないという話がありまして、それではみんなが集まろうということになつて、いつのまにか小さな集まりができたんです。そして4年ぐらい前から、定期的に集まる立派な会になつちやつたんです。その会には、長島さんの今、おつしやつたゲーリー・クーパー・ジュニアとか、コロンビア誰それといったペンネームの方が、みんな集まるんです。みんなおじいさんやおばあさんになっていて、入れ歯を洗いながら懐しの映画青春を話しています(笑)。それはそれは、とても楽しい雰囲気です。でも、みんな若いですね。

**東岡** 映画を好きな人はいつまでも青春だといえますねだから、みんな若いのでしょうか。

## ★映画フェスティバルの成功を機に映画記念碑設立!

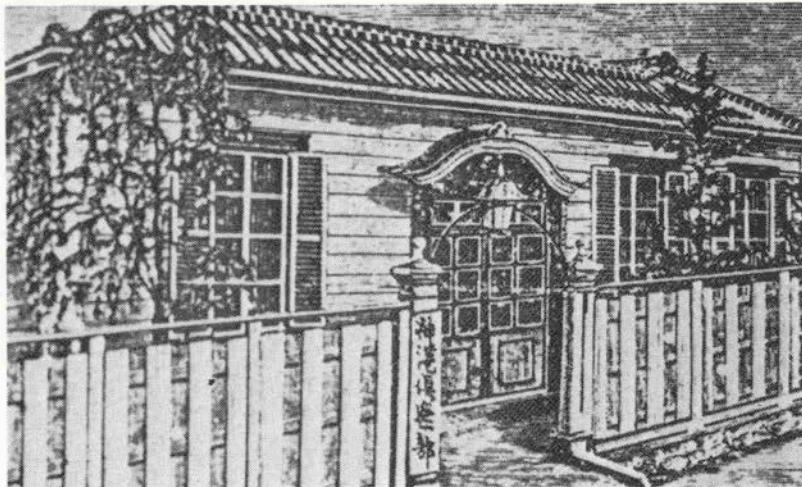
三村 映画フェスティバルは、ポートピア'81の年から始まりまして、昨年で3回を迎えたわけです。私はその一員として末席を汚しているわけですが、映画フェスティバルが行なわれるようになる前には、その前身として、神戸の映画ファンクラブという組織があつて、8年ぐらいい前からいろんな自主上映活動をしていました。ポートピア'81には、宮崎市長が、これは市民のみんなのお祭りだとおっしゃられたんです。そしたら、僕らは映画が好きだから、映画でみこしをかつぐというか、参加しよう

うということになつたんです。  
その頃から神戸が映画の発祥地であるということはよく知つてはいたんですが、映画フェスティバル実行のバッケボーンにはそのことが僕らを勇気づけてくれたし、これを機に映画記念碑を建てようという意気込みが生まれ、映画ファンの団結でこれに積極的にとりくむ機会をようやく3年目で得たというのが、僕らの思いです。さきほど、淀川先生から神港俱楽部のお話が出ましたが、僕らもこれからもっと勉強していくかと思つています。

淀川 神港俱楽部でキネトスコーピーが初めて上映された明治29年当時、入場料が60銭ですから、現在の1万円どころの金額じやありません。それでも会場は超満員になつたといいますから、神戸の人たちは外国の文化に対して、どれほどの好奇心をもつていたか、そして感受性が豊かだったかということがわかります。値段が高くても外国文化を吸収するためにはお金にこだわらない、という神戸のぜいたくな氣質はとつても素晴らしい。これが神戸がハイカラという故なんでしょうね。

とですよ。

三村 これから約2年後、つまり昭和60年には映画が初めて上映されてから、ちょうど90年目にあたるわけですが、これを目標にいろんな人たちに応援していただいて、記念碑を建てようと考えているわけです。しかし、全国の映画ファンの協力が得られて初めて実現できる遠大な計画であります。一方、映画の歴史的な資料を調べてみると、発祥の神港俱楽部のことがあまり研究されていません。たとえば、神港俱楽部の中の写真すらも見つかっていないんです。そこで、僕ら映画フェスティバルのスタッフも一生懸命に勉強して、神港俱楽部の記念碑が建つと同じに一冊の本をつくりたいんです。現在もあちこちへ取材へ行って、當時、神港俱楽部へ行ったことが



明治29年、花隈にあった神港俱楽部

あるという人たちのお話を伺つたりしています。

また、映画フェスティバルを年毎に充実させながら、

2年後にむけて、神戸映画史展をさんかギヤラリーなどで開催したいと思っています。そのためには、淀川先生にも、新開地などの資料をお借りしたり、いろいろとお知恵を拝借したいと思っているのですが……。

淀川 力善さんや荒尾親成さんなども資料をおもちと思いますよ。

長島 映画のプログラムも貴重な資料ですね。

三村 記念碑のカンパについてですが、同意書に名前を記入してもらつて募金箱に入れていただいていますが、多くの人たちに寄付してもらつたから、何かの形でこういった人たちの名前を残したいんです。たとえば石碑に募金協力者の名前を刻むという方法もありますが、スタッフが話しあつたところでは35ミリのフィルムに全部の名前を撮つて、そのフィルムを記念碑の中に納めたらどうだろうと考えているんです。映画ファンがフィルムに名前を刻むというのが、ファンらしくいいのじやないかなと……。

淀川 「スター誕生」という映画で初めてカラー作品になつたのですが、この監督は非常に宣伝のうまい人でもあります、このプリントはハリウッドの地下何メートルとい

う所に埋められて、100年経たなければとりだせないんです。つまり、研究材料として保存するためで、現在もとりだせないわけです。そこには記念碑が建つてゐるんです。

鳴田 セっかくですから、募金者の名前だけでなく、現在の神戸の姿をしっかりと同じフィルムに納めて、記念碑に入れるべきですね。それに石碑は、神戸の御影石を用いるなんていふのも神戸らしさが生かされていいです

淀川 100年経つたら、昔、こんな自動車が神戸を走つていたのか、と大笑いするかもしれません。

長島 スペースに左右されるかもしれません、神戸の彫刻家の手でユニークなものが生まれるといいですね。

淀川 そうです。大きいものより、洒落たもの、粹で神戸らしいハイカラさが出来たら素敵ですね。

東岡 神戸市長も映画ファンだから、神戸市の協力もきっと得られるはずです。

長島 映画のモニュメントらしいものであると同時に、神戸の街のシンボルとなるような記念碑が望まれます。

三村 映画の発祥地である神戸に建つ記念碑がどのようない形でつくられるかは、今後、応援してくださるみなさんのいろんなご意見をもとに、もつとも神戸にふさわしい素晴らしいものをと考え、少しずつ具体化していくことになりますが、おかげさまで淀川先生をはじめ多くの方々のご協力ご理解をいただきことで好調なスタートをきることができました。

昭和60年の12月1日設立を目指し僕ら映画フェスティバルのスタッフ一同頑張りたいと思っておりますので、一層の応援をいただき存じます。（文責／編集部）

#### □ 映画発祥地神戸に記念碑を建てる会

事務局 月刊神戸つ子編集室

〒650 神戸市中央区東町113の1 大神ビル9F

映画記念碑係 ☎ 078(331)2246

または、シネマハウス ☎ 078(331)4090  
みんなさまの心あたたかい募金をつのります。

募金振込先 太陽神戸銀行 本店

(普通口座) 301-3440592



映画記念碑の募金をする淀川さん

**田崎真珠株**

取締役社長 田崎俊作  
神戸市中央区港島中町 6-3-2  
TEL (078) 302-3321

**オールスタイル株**

取締役社長 川上 勉  
神戸市中央区伊藤町121  
TEL (078) 321-2111

**カネボウベルエイシー株**

取締役社長 稲岡必三  
神戸市中央区三宮町1丁目9-1-807  
センター・プラザ東館 8F  
TEL (078) 392-2101

**鈴ペニヤ**

取締役社長 松谷富士男  
神戸市中央区三宮町1丁目10-1  
TEL (078) 332-3155

**モロゾフ株**

代表取締役会長 萩野友太郎  
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号  
TEL (078) 851-1594



キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」の  
企画は以上5社の提供によるものです。





# LÖWENBRÄU



(ドイツが生んだ世界のビール)

# レーベンブロイ

生 で 新 登 場

この一滴に、  
ニッカの  
総てをこめて。



●写真左より、キングスランド5000円、スーパー・ニッカ3400円、  
フォーチュン'80 10000円。(いずれも標準小売価格です)

ニッカウヰスキー